

第 16 回研究評価委員会（議事概要）

日 時：2026 年 2 月 20 日（金）16:00～17:00

場 所：NIRA 総研大会議室およびオンライン

- 議 題：
1. 2025 年度研究事業の成果について
 2. 2026 年度研究事業計画について

研究評価委員：嘉治 佐保子 慶應義塾大学名誉教授
芹川 洋一 日本経済新聞社客員編集委員
福川 伸次 一般財団法人 地球産業文化研究所顧問（ご欠席）

N I R A： 金丸会長、谷口理事長、神田理事 兼 研究調査部長、
大河内監事、早川総括管理部長

資料 1 2025 年度研究事業の成果について

* 研究評価委員より出された意見は、以下のとおり。

1. 2025 年度研究事業の成果について（資料 1 参照）

神田理事兼研究調査部長より 2025 年度の研究事業について説明があり、これを受けて委員からは、日本が抱える重要な政策課題に幅広く積極的に取り組んでいるとして、研究事業に対して高い評価をいただいた。あわせて、民主主義の後退を防ぎ、社会の分断を深刻化させず、人々の合意形成が図れるような試みへの期待が表明された。

なお、個別の研究課題についての主な意見は、以下のとおりである。

- ・ 成果物の内容を紹介する短い動画を AI エージェントで制作する試みはメッセージの伝達方法として現代のニーズにマッチしており評価できる。AI を用いることによる危険はあるが、内容のチェックをしながら使うべきだ。（嘉治委員、芹川委員）
- ・ フォーラムでの議論を、全体とテーマ別に分けて 4 つのオピニオンペーパーとしてまとめた。その場で聞いただけでは忘れてしまいかねない内容を記録に残し、再確認できるようにした点は評価できる。（芹川委員）
- ・ フォーラムで取り扱われたテーマは、今、大事な論点をすべて含んでおり、評価で

きる。議論において、同じ意見に到達することが目的とされず、それぞれの見解が率直に語られているところも評価できる。(嘉治委員)

- ・ わたしの構想のテーマ選定は興味深い。また最終ページのポンチ絵は、いつも内容を端的に示しており、評価できる。(芹川委員)

2. 2026 年度研究事業計画について

神田理事兼研究調査部長より 2026 年度の研究事業計画について骨子の提案があり、これをもとに今後の NIRA 総研の研究事業計画に関する議論が交わされた。

研究評価委員から出された主な意見は、以下のとおりである。

- ・ 民主主義を後退させないための試みが求められる。互いに意見を言い、聴き合う場が必要。(嘉治委員)
- ・ AI を利用して政策に関する意見を集めることはできるが、その先の意思決定にどう AI を使うのか、考える必要がある。(芹川委員)
- ・ AI を用いて基本的な質問に答えるツールを作れるとよい。(嘉治委員)

以 上